

JOMF 派遣医師便り (2014. 4)

◆シンガポール◆

人工透析

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

シンガポールの National Kidney Foundation (NFK, 国立腎臓基金) によれば、人工透析を導入される患者さんが、特にマレー系住民の間で増えているということだ。1999 年、新規に透析を導入された患者さんは 536 名であったが、2012 年には 913 人に増えた。(シンガポールの人口は 1999 年当時で日本の 30 分の 1、現在は 25 分の 1 である。仮に日本と同じ人口だとすると 913 人は 2.3 万人程度となる。1999 年、2012 年の日本の新規の透析導入患者数はそれぞれ 3.1 万人、3.8 万人である)。

1999 年当時、透析療法を受けている患者の民族別内訳は中国系 78.1%、マレー系 16.2%、インド系 4.7%、その他、1.0%であった。当時から人口割合に比してマレー系が多めであったが、これが、2009 年には中国系 67.8%、マレー系 24.1%、インド系 6.9%、その他 1.2%となった。2013 年の国民の人口構成では中国系 74.2%、マレー系 13.3%、インド系 9.2%であるから、マレー系が人口に比してさらに多くなっている。透析導入患者の原因疾患のうち、糖尿病が原因とされる患者の割合は 1999 年でも 46%あったが、2009 年には 62%に達している。ちなみに、日本では糖尿病性腎症が原因の割合は 1999 年 25.1%、2009 年 35.1%、2012 年では 37.1%である。糖尿病に因る割合が徐々に増えているが、シンガポールでは日本よりさらに著しい。

マレー系に透析患者さんが多い理由として、糖尿病が多いこと挙げられている。しかし、民族ごとの糖尿病の割合でもっとも多いのは実はインド系である(17.2%(2010 年))。だが、増加率からすると、マレー系が著しい。2004 年の 11%から 2010 年の 16.6%に上昇している。インド系はこの間 15.3%から 17.2%へと上昇したのみであった。(2011 年、日本では人口の 8.3%が糖尿病であると推計されている。)

とすると、マレー系は、インド系に比べて、糖尿病に罹患した後、さらに慢性腎不全にまで陥りやすいなんらかの因子があると推測される。これについては今後、研究成果の発表が待たれる。

シンガポールでは多民族国家であるため、民族差別的な発現は、御法度である。しかしながら、こうした報道は揶揄するためのものではなく、事実を伝え、自覚を促し、病気に陥らないようにするためのものである。実際、糖尿病が腎臓病につながるということが認知されていないことも多いようである。

少し話はそれるが、以前、臓器移植に関して、マレー系住民は宗教上の理由から、臓器提供者からはずされていた。しかし、実際に、臓器提供を受ける側になることがマレー系住民に多いという事実が明確となり、結局、21歳以上の全国民が、基本的には臓器提供者となったということがあった(シンガポールでは臓器提供者となることを拒否しない限り、21歳以上の全国民は、基本的に臓器提供者である)。こうしたデータを提供することはむしろ、民族間の対立を避けるように働いているように思える。

NFKでの透析患者数はシンガポール国の透析患者の60%を占めている。透析費用は徐々に下げられてきている上、この施設での透析費用は他の私立の施設の半額程度であるが、それでも個人負担は一月に約2000ドル(16万円ほど)である。個人費用もさることながら、この団体の収入の3分の1が寄付金であることもあり、費用は今後、大きな問題となっていくと考えられる。少なくとも生活習慣病に関連した透析例を減らすための、努力は今後、ますます、必要になっていくと思われる。